介護職を選択する

かつての介護と言えば、家族、その中でも特に女性が行うものとされていました。2000年になって介護に係る家族の負担を軽減し、社会全体で支えることを目的にした『介護保険制度』が創設されました。そして現在、少子高齢化が進む中、介護職の現場は、いったいどうなっているのでしょうか。

女性従業員の多い介護の現場では、女性が働きやすい環境整備が進められています。厚生労働省の女性活躍推進法の認定制度「えるぼし」を取得した（株）アクタガワの白鳥洋平さんにワーク・ライフ・バランスの取り組みなどについて聞きました。さらに社員の池田優哉さんに、同じ会社で勤務する妻の働き方や、子育て世代の男性として介護職に対する想いを聞きました。

（株）アクタガワの女性が働きやすい職場づくり

白鳥 洋平さん
管理本部
人材開発グループマネージャー

◆「えるぼし」の取得

一言でいうと「女性が働きやすく、活躍している会社だと厚生労働省が認定した」ということです。（株）アクタガワは2022年3月に、三つ星に認定されました。「採用」「継続就業（勤続年数）」「労働時間（時間外労働など）」「管理職比率」「多様なキャリアコース」の5つの評価項目があり、基準を満たしている項目数に応じて取得できる星の数が決まります。わが社は、5つの基準を満たしているので三つ星です。

もともとダイバーシティ（多様性）経営をしており、いろんな人が働ける職場作りに取り組んでいました（経済産業省主催平成30年度 ダイバーシティ経営企業100選にも選定）。障害のある人、シニア、外国人、そして子育て中の女性などが働きやすい職場を作るための制度を作っています。例えば、病児保育のある企業主導型保育園の設置やシングルペアレント応援手当、CC（チャイルドケア）社員制度（子育てコースで時短で働ける。法律では3歳までだが社内制度は小学3年生まで）だけでなく、介護などのために利用できる制度もあります。社員は女性が7割を占め、その中には子育て中の社員もたくさんいます。そんな会社として培ってきた風土があります。

介護業界は慢性的な人材不足です。たくさんの人が入社して、制度を使って定着することで、人も会社も成長すると考えています。職員の生きがい支援だけでなく、本人の希望を聞いて、もとに居た職場にこだわらず、その時の希望に合った職場を探すスタンスです。会社が働く人、一人ひとりに合わせることも多様性です。子育てが一段落したら、また正社員に戻る、など選択できることが重要です。女性が働きやすい職場は男性も働きやすい職場。男性も女性も関係なく生きがいを追究できる職場です。

「介護」という仕事を選んで

池田 優哉さん
ぺんぎん福祉用具サービス
福祉用具専門相談員
福祉住環境コーディネーター２級

◆なぜこの仕事に？

以前は電話応対がメインの仕事をしていました。お客様の顔を見てやりとりする方が楽しいなあ、と感じていた時に会社が倒産。転職を余儀なくされました。次の仕事は人の顔を見て、人と接する仕事がしたいと思っていました。祖父母が大好きだったこともあって、高齢者の役に立ちたいとも。そんな時に介護職の中の福祉用具専門相談員という仕事に出会いました。8年前のことです。

現在、福祉用具専門相談員として、高齢者の自宅環境の整備、具体的には福祉用具レンタル、自宅改修、福祉用具の販売などを行っています。介護保険を使う時は、最初にケアマネジャーがいろいろ話を聞き、サービスの中に福祉用具が必要だと判断すると、こちらに声が掛かります。

福祉用具を設置後、半年ごとに福祉用具の点検のために各家庭に出向きます。その時、用具の安全確認をしながら、利用者の顔や様子を見ることができます。同時に日常の困りごとなどをさりげなく聞き出したりしています。介護の支援は、ケアマネジャーをはじめ女性が多いので、私が訪問すると「あ、男の人が来た～」って感じになります（笑）。でも特に自分が男性だからと特別に感じることはありません。

親からはやりがいのある仕事だと背中を

車いすの安全確認

押してもらいました。先月も祖父母がちょっとした介助が必要な状態になっていた時に、風呂場に手すりを付けることを提案しました。「また一人でお風呂に安心して入れるようになった」と喜んでくれました。祖父母の力になれてうれしかったです。

◆夫婦の働き方と ワーク・ライフ・バランス

妻とは社内で知り合い結婚して6年、子どもは2歳になります。

妻は総合職で入社し、訪問介護を経験した後、本社の総務事務をしていました。妊娠時はCC制度を使い正社員で短時間勤務をしました。産休育休後は、パートとして保育園の事務をしています。

生活の変化に伴って勤務可能な日数に応じて、正社員からパートへの変更ができ、希望すれば正社員に戻れるので、妻は同じ会社で仕事を継続することができています。生活の状況に合わせて勤務形態を変えられる制度があるので助かっています。

池田さんファミリー

制度は男女の区別なく使えますが、今のところ妻が制度を利用しています。職場内にも子育てを応援するムードがあり、私も早く帰って子どもと一緒にお風呂に入る日もあります。

私は残業や、休日に出勤する日もあったりしますが、朝は子どもにご飯を食べさせ、休みの日は基本的に子どもと一緒に過ごしています。

（株）アクタガワの経営理念の中に「人間の生きがいを追究すること」とあります。会社のクラブ活動でランニングを始めました。自分の生きがいも強く意識するようになりました。

この趣味もこの会社に入らなければめぐり合わなかったと思います。今では通勤もランニングするほどです。大会にも出たりしています。

◆介護職は、ありがとうと 言ってもらえるサービス業

若い世代の人たちには「おじいちゃんやおばあちゃんは少しずつ年を取っています。小さな時から、ご飯を食べるなど、一緒に過ごす時間を大切にしてください」と伝えたいです。「介護職は大変だ」というイメージを持つ人が多いように思いますが、実際は、社会の役に立ち、これほどやりがいのある仕事はありません。これからの40年で少子高齢化がますます進み、高齢者が増えるので、介護の仕事は社会の中でより大きな役割を持つと思っています。

自分の仕事に誇りを持つことができる介護職は「ありがとう」と言ってもらえるサービス業です。この業界に入るまで知りませんでしたが、介護保険を使うことで安心・安全が増え、高齢者本人はもとより家族の介護負担も減ります。日常生活が大変になったら、市役所や地域包括支援センターなどに相談してみて下さい。ケアマネジャーや業者も自分で選ぶことができますよ。

大会に出場！

あとがき

女性の多い介護の現場で働く男性は、女性が働くことや介護職に対してどんな気持ちを持っているのだろう、と思っていました。

池田さんが担当している福祉用具専門相談員は、介護の中でも比較的男性の多い分野です。高齢者や障害のある人が、自分でできることを減らさない、一人でできる環境を作る、そんな役割を担っています。使っている福祉用具がいつもベストな状況で使えるように、訪問して用具を確認し、ねじを締めるなどの安全点検もしているそうです。福祉用具といえば介護ベッドや車いすが目に浮かびますが、「一番多いのは手すりです」とのこと。確かにそれがあれば、一人でできることも増えそうです。

「休みの日に、街の中で見かけた人の杖が気になったので、声掛けして調整させてもらったこともあります」という池田さんは、福祉用具のプロであり人と接することが好きなことが伝わってきました。

介護業界に対してネガティブな話がクローズアップされ、マイナスなイメージを持っている人が多いと聞きます。社員一人ひとりに寄り添い、楽しくやりがいを持って働くことができる、それぞれの人生のステージに合わせて働き方を変えながらキャリアを継続していける、そんな職場もあることを今回知ることができました。女性が柔軟に働き方を選べる職場は、男性の働き方も柔軟に選択できるはずです。まずは女性の働きやすい会社の目安となる「えるぼし」を、職業選択の際の情報の一つとして、役に立ててほしいです。

（佐藤みゆき）